

報告事項

2019 年度事業報告

I 総括

本年度、日本建築家協会(JIA)は、公益社団法人に移行して以来、7期目を迎えました。公益団体として引き続き、「地域に根ざした公益事業」を旗印に、建築の質の向上、まちづくり活動への支援、環境の保全と創造、価値ある建築物の保存再生、建築文化の発展等を目的に、数多くの事業を実施しました。

加えて昨年度に続き、①会員の知見レベルの向上や情報交流の拡充による「JIA 建築家のリーダーシップ強化」へのアシスト、②建築関連の法・制度等に関する問題への適切な対応による「建築家の行政的課題」の解決推進、そして③国際交流活動の充実による「建築界を代表する外交的役割」の効果的な遂行という、3つのテーマにもとづいた施策に取り組みました。

[2019 年度重点施策]

今年度の重点施策は以下の通りです。

1.地域に根ざした公益事業の拡充

公益法人として、被災地の支援、まちづくりへの支援、消費者に対する建築相談、建築物や都市の環境問題への対応、建築物の保存活動をはじめ、支部・地域会を主体にきめ細かな活動を行いました。地域社会とのネットワークづくりと、災害対応や建築物保存をはじめ他の関連する組織等との連携も重視しました。

2.会員への情報提供・支援機能の強化

「JIA 建築家のリーダーシップ強化」のための施策として、各種教育・育成プログラムの拡充を目的に、継続職能教育(CPD)システムの整備を行いました。また、現状 JIA の本部、支部、地域会等に分散している教育プログラムを整理、集約して、発信力のあるブランドとしての情報プラットフォーム「JIA スクール」を整備する検討を行いました。

3.業務環境の変化への対応

近年、建築生産方式の多様化や技術の急速な進展に伴い、「建築家の行政的課題」への対応もさらに重要になっています。CM(コンストラクション・マネジメント)の導入、BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)の普及に関して国交省等が主催する検討会に対して、適切な意見表明を行いました。一方でJIA内部に対しても、新しい動きについて理事勉強会の開催や会報誌への掲載等で情報共有に努めました。また、改正建築士法、設計業務報酬基準(告示 98 号)の普及活動に関連団体と連携して取り組みました。

4.建築界の国際化に向けた活動

「建築界を代表する外交的役割」の効果的な遂行のために、UIA(国際建築家連盟)、ARCASIA(アジア建築家評議会)および海外建築関連団体との国際ネットワークを生かした情報の収集・発信、調査活動を行いました。また、前年度に続き、行政や関連団体に対して JIA の国際活動への支援を積極的に働きかけ、海外の建築関連制度等に関する調査業務を受託しました。

5.国連 SDGs に関する取組み

2015 年に国際連合が採択した SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて、建築家および JIA が、広い分野の課題に国際的な視野で取り組むことは、冒頭に掲げた 3 つのテーマの実践として意義が大きいと認識しています。UIA が「SDGs 建築ガイド」を発表したのを受けて、JIA も本年度、日本における指標となる建築を紹介する「SDGs 建築ガイド日本版」を刊行しました。

[2019 年度分野別の主な事業活動]

2019 年度の分野別の主な事業活動は以下の通りです(各委員会・全国会議等の活動報告および支部の活動報告については別途記載しています)。

1.建築環境整備事業

1)環境保全活動

住宅をはじめとする建築物や都市の環境保全、省エネルギー化の推進を目的に、市民や関係官庁への普及広報活動を行いました。再生可能エネルギー利用促進、木材の利用促進等に関するシンポジウム・セミナーの開催や、国交省による改正省エネ法の説明会への支援を実施しました。

2)まちづくり・建築物保存再生活動

自然・歴史・文化・地域社会・安全などに配慮したまちづくりをめざして、支部・地域会を中心に、市民参加のセミナーやシンポジウムの開催等、地域に密着した取組みを実施しました。また、文化財としての価値の高い建築物の保存再生のため、「文化財修復塾」制度の運営、他団体と連携して建築物の調査等の活動を実施しました。

3)災害対策活動

2011 年発生の東日本大震災の復興のため、引き続き、支部・地域会を中心に地域に密着した支援を続けています。また、大規模な地震(震度 6 弱以上)等の発生に対しては、災害対策本部を設置し、自治体等と協力して支援活動を行う体制をとっています。

4)建築相談活動

建築・増築・リフォームの相談、欠陥住宅問題等のトラブルへの対応をはじめ、一般消費者からの依頼に応じて、支部・地域会の建築相談委員会や建築相談室が住まいに関するきめ細かな建築相談活動を実施しました。

2.建築文化育成・交流事業

1)表彰活動

「JIA 日本建築大賞・JIA 優秀建築賞」「JIA 新人賞」「JIA 25 年賞」「JIA 環境建築賞」を主催し、受賞作品を収録した JIA 建築年鑑を出版しました。さらに、「建築家のあかりコンペ」のほか、支部・地域会による地域の特色を活かしたさまざまな表彰事業や、支部・地域会主催・連携による「学生卒業設計コンクール」を実施しました。

2)交流活動

広く一般市民に対して、建築文化の普及・振興を図ることを目的として、支部・地域会が主体となって、建築物やまちなみの見学会、建築文化に関するシンポジウム、講習会、建築

作品の展示会の開催、建築文化関連図書の出版協力やパンフレット作成等を実施しました。

3) 国際協力活動

UIA、ARCASIA、および各国の建築関係団体等との各種会議等を通じて、情報交換を行いました。本部による活動のほか、支部等による海外との交流活動も行いました。

また本年度は、日本建築センターおよび建築技術教育普及センターからの業務委託を受けて、海外の建築に関する情報を取りまとめた報告書を作成しています。

4) 教育・育成活動

建築家をめざす大学生・大学院生対象の「オープンスクール」、大学院生向けインターンシップへの支援、学生向けの短期実習を行う「オープンデスク」といった教育・育成支援制度の運営を行いました。

3. 建築制度整備事業

1) 継続職能研修(CPD) 制度運営

建築家の社会的責務を果たすために必要な継続職能研修のために、CPD プログラムの認定(2019 年度に認定したプログラム総数 1,639 件)、CPD 取得状況の管理、他団体との連携推進をはじめとする CPD 制度の管理・運営を行いました。さらに、会員サービスの向上、会員の職能の充実をめざして、CPD のプログラムの多様化、インターネット受講可能プログラム「JIA Web セミナー」のコンテンツの拡大(3月末時点コンテンツ数 44 件)や管理システムの高度化を進めました。

2) 建築家資格制度運営

建築家資格制度に関して、「登録建築家」の認定業務、制度普及のための活動等を実施しました。JIA の正会員全員を登録建築家へ導くという目標達成のため、PR 活動の強化や資格制度の整備を行いました。(2020 年 4 月 1 日現在建築家資格制度登録者数見込み 1,702 人)。

3) 建築関連の法・制度の調査研究・提言

2019 年 12 月に成立した「改正建築士法」、および 2020 年 1 月に公布された「設計業務報酬基準(告示 98 号)」に関する普及活動を、建築設計 3 団体(JIA、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会)が連携して実施しました。

国交省「CM 方式(ピュア型)の制度的枠組みに関する検討会」へ建築設計 3 団体と共同して意見提出等を行いました。また、BIM については、国交省が主導する「建築 BIM 環境整備部会」をはじめ、関係団体主導の BIM に関する検討会議への参加を通じて、適切な意見提出を行いました。さらに、公共建築設計懇談会(国交省大臣官房官庁営繕部、東京都、神奈川県、建築設計 3 団体で構成)では、発注者支援、設計者選定等の課題に関して意見交換を行いました。

II 2019 年度通常総会

2019 年度通常総会を 6 月 27 日午後 2 時 30 分より 3 時 30 分まで、建築家会館1階大ホール(東京)にて開催しました。正会員数 3,580 名の内、書面表決者 1,573 名、委任状提出者 574 名を含む出席者総数 2,205 名により総会が成立し、議長に鈴木弘二会員を選出した後、下記議案が審議され、いずれも原案通りに承認されました。

[2019 年度総会議案]

- 第 1 号議案 2018 年度貸借対照表及び損益計算書、財産目録の承認の件
- 第 2 号議案 会費規程一部改正及び準会員・協力会員の入会金・会費一部改正の件
- 第 3 号議案 理事及び監事の選任の件
- 第 4 号議案 名誉会員選任の件

III 2019 年度理事会

2019 年度理事会を、臨時理事会 1 回・理事会書面審議 1 回を加えて合計 11 回開催しました。各理事会の議事は以下の通りです。

[2019 年度理事会議事]

1) 第 255 回理事会(4 月 24 日開催)

- ①入退会者について
- ②準会員(シニア会員)入会申込書(再入会用)について
- ③全国会議議長、委員会委員・全国会議委員委嘱について
(JIA まちづくり会議、教育・表彰委員会、広報委員会、CPD 評議会)
- ④(仮称)組織再編特別委員会設置及び委員長・委員委嘱について
- ⑤JIA 環境建築賞審査員委嘱について
- ⑥特別委員会廃止について
- ⑦正会員以外から選任する役員(理事)候補者の選任について
- ⑧活動及び業務執行状況報告

2) 第 256 回理事会(5 月 31 日開催)

- ①入退会者について
- ②会員資格喪失者について
- ③委員会委員委嘱について
(国際交流委員会、職能・資格制度委員会)
- ④2019 年度通常総会開催及び議案について
- ⑤沖縄支部規約改定について
- ⑥支部運営費固定基礎費改正について
- ⑦活動及び業務執行状況報告

3) 第 257 回理事会(6 月 27 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会の設置・廃止・名称変更及び CPD 評議会組織について
- ③総会白紙委任状の取扱いについて

4) 第 258 回理事会(臨時)(6 月 27 日開催)

- ①会長、副会長及び支部長選任について
- ②委員会委員長・全国会議議長、委員会委員・全国会議委員委嘱について
(職能・資格制度委員会、建築家資格制度実務委員会、業務委員会、財務委員会、
総務委員会、国際委員会、職責委員会、懲戒審査委員会、(仮称)2020 大会特別委員会、
JIA 災害対策会議、JIA 環境会議)

5) 第 259 回理事会 (8 月 29 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会委員長・委員会委員・全国会議委員委嘱について
(教育委員会、表彰委員会、選挙管理委員会、財務委員会、業務委員会、職責委員会、懲戒審査委
員会(仮称)2020 大会特別委員会、JIA まちづくり会議、JIA 環境会議、国際委員会)
- ③九州支部規約改正について
- ④員候補者選挙規程改正について
- ⑤活動及び業務執行状況報告

6) 第 260 回理事会 (10 月 10 日開催)

- ①入退会者について
- ②全国会議委員委嘱及び建築家資格制度検討 WG 設置について
- ③事務局長退職及び事務局長代行について
- ④CPD 規則・細則の一部改訂について
- ⑤活動及び業務執行状況報告

7) 第 261 回理事会 (書面) (11 月 13 日開催)

- ①入退会者について

8) 第 262 回理事会 (12 月 12 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会廃止・名称変更および委員異動について
- ③Woodrise2021 in JAPAN 組織委員会への参加について
- ④「JIA 公益事業活動助成」採択について
- ⑤登録建築家審査マニュアル改定について
- ⑥葛西臨海水族園更新に対する要望書提出について
- ⑦活動及び業務執行状況報告

9) 第 263 回理事会 (2 月 13 日開催)

- ①入退会者について
- ②委員会委員異動について
(JIA・SDGs建築フォーラム実行委員会、BIM 特別委員会)
- ③学生会員会費の取り扱いについて
- ④「JIA 公益事業活動助成」採択について
- ⑤低炭素社会推進会議提言案について
- ⑥全国学生コンクール事業 管理・運営について
- ⑦活動及び業務執行状況報告

10) 第 264 回理事会(3 月 18 日開催)

- ①入退会者について
- ②会員資格喪失者について
- ③委員会委員異動について(名誉会員選考委員会)
- ④フェロー会員承認について
- ⑤2020 年度事業計画(案)及び予算(案)について
- ⑥JIA 環境建築賞最優秀賞の改称について
- ⑦海外 4 団体との協定更新について
- ⑧JIA・SDGs建築フォーラム資金計画及び寄付・協賛募集について
- ⑨活動及び業務執行状況報告

11) 第 265 回理事会(書面)(3 月 24 日開催)

- ①JIA環境建築賞最優秀賞の改称について

IV 建築家認定評議会等

1. 本部建築家認定評議会

2019 年度本部建築家認定評議会は新型コロナウイルスの感染拡大からの安全を考えて、書面審議に切り替えました。2019 年 3 月 13 日に書面発送、3 月 23 日に審議回答を頂きました。議案は全て承認されました。議事は以下の通りです。

①登録建築家の認定、更新、再登録について

- ・新規認定審査 正会員の申請者 25 名、合格 25 名
非会員の申請者 3 名、合格 3 名
- ・登録更新審査 対象者 619 名、申請者 447 名、合格 447 名
- ・再登録審査 申請者 60 名、合格 60 名 全体での更新率は 72.3%でした。

以上の審査結果となり、物故者等を除した登録建築家の総数は 1,702 名(うち JIA 正会員 1,587 名、正会員の一級建築士の 44.5%強)となりました。2019 年度は対象者全員に申請登録喚起案内を 2~3 回行いました結果、新規、再登録者が増えましたが全体では前年度より 87 名の減少となりました。

- ②支部建築家認定評議会からの意見
- ③支部建築家認定評議会評議員からの意見
- ④支部認定評議会廃止に関して本部認定評議会での承認
- ⑤2018 年度議事録の公開の報告

2. 本部建築家資格制度実務委員会

本部建築家資格制度実務委員会は、計 13 回(内 11 回を職能・資格制度委員会と合同で)開催し、主な作業として以下を行いました。(後述「職能・資格制度委員会」報告参照)

- ・ホームページ上に公開される登録申請説明書の改定
- ・新規・更新・再登録 JIA 正会員のための申請登録促進用の案内説明メール配信
- ・規則・細則・マニュアル改定準備
- ・プロポーザル等における民間資格の扱いの調査分担を継続
- ・2019 年度青森大会においてシンポジウムを開催
- ・2019 年度の本部認定評議会を書面審議に切り替え準備開催
- ・評議会議事録の公開

V 本部役員候補者選挙

10月15日発行の「JIA MAGAZINE 368号」で2020年度本部役員候補者選挙告示を行い、12月15日に近畿支部支部長を除く役員候補者の確定と、近畿支部支部長選挙について第2回告示を行いました。12月24日に候補者辞退による近畿支部支部長候補者の確定について第3回告示を行いました。

[2020年度役員候補者(2020年度総会にて役員選任を審議する予定)]

(氏名)		(所属支部)
【理事候補者】		
六鹿 正治	(再任)	関東甲信越支部
小西 彦仁		北海道支部
進藤 勝人		東北支部
慶野 正司		関東甲信越支部
山口 康憲	(再任)	関東甲信越支部
上田 克行		関東甲信越支部
今村 創平	(再任)	関東甲信越支部
水野 豊秋		東海支部
津田 茂		近畿支部
井上 久実	(再任)	近畿支部
武田 賢治		中国支部
武智 和臣	(再任)	四国支部
松山 将勝		九州支部
【監事候補者】		
沼田 亘		近畿支部

VI 委員会活動等報告

1. 委員会活動

1) 職能・資格制度委員会

JIA 創設の意義そのものである建築家資格制度の会員への周知と理解を深めることに主眼を置き、以下を重点項目として計12回開催しました。作業面の支援と、より多くのメンバーによる合議のため、内11回を本部建築家資格制度実務委員会と合同で開催しました。この他、随時メール稟議や意見収集を行っています。

①2018～2019年のBulletinでまとめた「改めて登録建築家を考える」をベースにした、制度の総括と今後についての検討

観念的総括から、専兼問題の解決へ向けた議論

AIA日本支部長と、国を問わない専兼問題のとりえ方を共有

②2018年3月理事会での支部認定評議会の廃止の方向性決定をうけた、制度の意義や在り方を損なわない規則・細則の改定検討

組織改編特別委員会資格制度WGでの議論に参加。WGへ案を提出したが理事会にはかけられず、規則・細則からの支部認定評議会抹消が決定。理事会前後には実務委員長と連名で執行部に見解を

提示

③制度の周知

10月理事会勉強会、1月近畿支部会員集会、2月四国支部会員集会

なお、2018年度の認定評議会における審査結果は別記のとおりで、登録建築家数の2014年度末からの推移は1754→2010→2139→2091→1790→1702(名)です。前年度の反省から申請登録を喚起する案内を対象者に対して個別に複数回行ったことで新規と再登録者数は増えましたが、更新率が思うように伸びませんでした。新年度は2019年度末に見えてきた制度の進歩的改革に臨みます。コロナ禍次第ですが前年度に引き続いての制度周知行脚を行います。

2)業務委員会

今年度の業務委員会は、本委員会を7回開催し、建築設計界の多くの課題について議論を重ねました。また、官庁営繕部等と三会(JIA、士会連合会、日事連)で構成される公共建築設計懇談会(3回開催)に参加し、意見や要望を伝えました。

以下は検討会メンバーとして推進した内容です。

- ・「共同住宅の建築時の品質管理のあり方に関する検討会」
- ・「CM方式(ピュア型)の制度的枠組みに関する検討会及び建築分科会」

以下は、国土交通省の意見照会に対応した内容です。

- ・「CM方式(ピュア型)のガイドライン」
- ・「働き方改革に配慮した建築設計業務委託のためのガイドライン」
- ・「建築設計業務等変更ガイドライン」
- ・「公共建築工事における工期設定の基本的考え方一部改訂」
- ・「改正後の品確法第22条に基づく「運用指針」の策定」

以下は、国土交通省の調査依頼に対応した内容です。

- ・「事務所経費構成の調査」
- ・「建築設計業界における新型コロナウイルス感染症による影響調査」

また、JIA 独自に「建築設計事務所が担う発注者支援(CM)」リーフレットを作成し、会員に発信しました。意見照会に際しては、特に主張すべき課題に関して、三会(JIA、士会連合会、日事連)の意見集約を主導し、より強力に国土交通省に申し入れました。適切な政策立案に対して積極的な関与、貢献ができたと考えています。

<ワーキンググループ活動>

①建賠 WG

事故防止のため、また、会員の負担軽減のため、主として以下の項目を実施しました。

- ・建築に関する事故防止を目的に「JIA 建築家賠償責任保険図解事故例集(構造編)」の発行に協力。
- ・沖縄、四国、福岡、東海、東北各支部でのケンバイ勉強会に出席し建賠の仕組み、事故事例を説明。
(ケンバイ勉強会については各支部2年に1度開催を目安としており、2019年度は2018年度未開催の支部にて開催予定)
- ・約款のうち不明確な部分を修正。

②約款 WG

- ・保険内容の更なる充実を図りました。

年々脅威が増しているサイバー攻撃や情報漏えいに対する備えとして「サイバーリスク補償オプション」を創設しました。

また、約款のうち、告示 98 号に対応・不明確な部分の修正を行いました。

- ・事故防止のため、また、会員の負担軽減のため、以下の項目を実施しました。

北福岡地域会、大阪地域会、北陸支部、中国支部、鹿児島地域会でのケンバイ勉強会に出席し建賠の仕組み・特徴、事故事例を説明しました。

今後、未開催の支部等を中心に勉強会を開催したいと考えています。希望される支部、地域会があれば対応します。

- ・建築に関する事故防止を目的に「JIA 建築家賠償責任保険図解事故例集(意匠・その他編)」の発行に協力。

③仕様書 WG

2000 年発行の「建築工事特記仕様書」(日本建築家協会編)の改定の可否を含めた特記仕様書の在り方を検討するため 2019 年 4 月に JIA 業務委員会委員長名で発信した、「建築三会特記仕様書 WG」提案書については、残念ながら具体的な検討に至りませんでした。

一方、公共建築協会発行の「民間(七会)連合協定工事請負契約約款に適合した工事共通仕様書共(令和 2 年版)」改定への改定対応窓口として 2019 年 10 月から事前の対応を WG で検討し、実際の改定では建築及設備工事の改定案の内容確認、修正案の洗い出し、取りまとめを実施。一次データを 2020 年 1 月末、二次データを 2 月末に提出しました。

3)財務委員会

会員減少による JIA 全体の財務状況の悪化に伴い、支部も含めた現状の把握と課題の洗い出しを昨年度まで行ってきましたが、今年度は更なる本部の管理費の削減を目指して各事業別の負担の洗い出しを行うと共に、理事会での本部収支への理解を得られるよう努めてきましたが、年度後半は新型コロナ対策で委員会を開催することもできなくなり中途半端な活動内容になりました。来年度は 2017～2019 年度の本部・支部の財務構成を再検討し、目前に迫っている正会員数 3000 人時代を見据えた本格的な議論を開始したいと思います。

公益目的事業助成は本来の目的を達成したとの意見もありましたが、支部の財務状況の悪化から支援を求める意見も多く、また今年度は地域会による新たな試みもあり、厳しい財務状況ではありますが来年度も実施することになりました。

4)総務委員会

総務委員会における 3 つの担務について報告します。1 つ目の「会員管理」では、毎回の入退会審査などを厳正に実施しています。ところで 2020 年 3 月時点の正会員数は 3,554 名で 2019 年 4 月から 94 名減少し、その減少率が 2018 年度の約 1.3%から約 2.6%に増加しました。高齢化や退職・現役引退という退会理由が多くなっています。

2 つ目は「諸規定類の整備等」です。会員への苦情対応に係る手順等の整備が九州支部から求められたことから、まず支部体制の実態調査を実施し、設置した WG で規程類の見直しを進めています。会員資格要件は、準用基準を定めた正会員に倣って残る会員の種別ごとに議論を深めています。学生会員の会費規程では、年会費なしで入会金だけにする変更案を上申し理事会で承認されました。CPD 規

則や建築家資格制度規則などの改定について協議しました。

3 つ目の「組織の横断的調整」ですが、昨年度に方針を作成しました組織再編の実施については、新設された組織再編特別委員会に引き継ぎました。

5) 広報委員会

JIA MAGAZINE を媒体の中心に据え、下記に示す「会員の活動の連鎖」を誘発する記事を掲載しました。

各支部・地域会で行われている活動を紹介する企画を増やし、昨年から引き続き支部長インタビューを掲載。また各支部・地域会で行われた賞やシンポジウム等の活動をカテゴリー別にまとめた「支部・地域会活動情報データ」の連載を開始。それらの活動を吸い上げていく方法論を検討。その確立が今後の課題となっています。

秋に開催される SDGs フォーラムに向けて、「建築家が取り組む SDGs 建築」と題し、各支部の SDGs への取り組みや各ゴールを体現した代表的な建築を紹介する連載を開始しました。

4月より始まる JIA スクールの活動に向けて、その概要を紹介。今後、HP で JIA スクールの講習を周知できるよう検討を行いました。

HP については、改訂のための検討を引き続き行いました。

6) 教育委員会

当委員会は、表彰プログラムに関する活動を担当しています。今年度は、会員と将来の会員候補である学生への教育活動の活性化や、JIA の教育プログラムの全国的なプラットフォームである「JIA スクール」の立ち上げなどが主要な議題となりました。それらを踏まえて、各スクールやセミナーの活動を行う教育担当と、CPD プログラムの活動を行う CPD 担当を中心に、教育ではオープンデスク、大学院インターンシップなどの活動を行いました。

7) 表彰委員会

表彰委員会は、例年通り日本建築大賞・優秀建築賞、新人賞、25 年賞、環境建築賞、建築家のあかりコンペなどを実施しました。2019 年度は、委員会再編に伴い、教育委員会と表彰委員会が別委員会となりました。このたび委員会として独立したことからも、JIA の表彰活動を広く俯瞰し、より効果のある活動を行うとともに、各賞の運営方法をより適正なものへと修正する議論を始めました。環境建築賞においては、来年度より賞の形式を見直すこととしました。学生建築賞を、表彰委員会が運営する議論を継続して行っています。

8) 国際委員会

JIA が加盟する国際団体を通じた活動として、バングラデシュ・ダッカで開催された ARCASIA Forum20 での理事会と5つの委員会や他の公式行事への参加を行いました。また、ARCASIA の5委員会の Round Table (建築教育委員会・職能委員会・環境委員会・社会的責任委員会・次世代委員会)に委員を派遣し、委員会活動の活性化にも努めました。UIA については、アゼルバイジャン・バクーで開催された UIA Forum とバングラデシュ・ダッカで開催された SDGs 常置委員会へ参加しました。特にダッカの SDGs 委員会で発せられた「ダッカ宣言」により、和英完全併記の『SDGs 建築ガイド日本版』を JIA が 2019 年秋

に刊行することに至りました。

二国間の活動においては、協定を結んでいるアメリカ建築家協会 (AIA) とタイ王立建築家協会 (ASA) の全国大会に参加しました。また、協定を結んではいませんが、スリランカ建築家協会とスウェーデン建築家協会の大会へも参加しました。

JIA 支部への助成活動として九州支部が申請した日韓学生コンペおよびセミナーを対象事業としました。2019 年度は沖縄支部のタイへの視察も対象事業となったが、COVID-19 の影響で視察が延期となりました。

最後に、2018 年 9 月に JIA が主催・開催した〈アルカジア東京大会 2018/ACA18TOKYO〉が、日本政府観光局 (JNTO) より「2019 年度・国際会議誘致・開催貢献賞」(中小規模・開催の部) として表彰されたことをご報告します。

9) CPD 評議会

毎月 1 回 CPD プログラムの認定審査を行う評議会を開催し、その間に開催日が次回委員会より前のものの審査について、メール審査を計 12 回行い、今年度全体で、新規プロバイダーの 12 件の認定と合わせ、合計 1600 余件のプログラムを認定しました。

CPD 単位取得機会多様化のため、建築 CPD 情報提供制度における(公財)建築技術教育普及センター (JAEIC) との連携、Web プログラムの講師の著作権等に関して、運用上のルール作りを行いました。また、建築 CPD 情報提供制度の適用に鑑み、CPD 規則、細則の一部見直しを行いました。

2. 必要時に立ち上げる委員会

1) 選挙管理委員会

2019 年 9 月 30 日開催の第 1 回選挙管理委員会にて、役員候補者選挙規程等の内容確認や選挙日程等を決定し、10 月 15 日に第 1 回告示を行いました。近畿支部支部長を除く立候補者が定員と同数であったため、近畿支部支部長を除く役員候補者の確定と、近畿支部支部長選挙について、第 2 回告示を 12 月 15 日に行いました。候補者辞退による近畿支部支部長候補者の確定について、第 3 回告示を 12 月 24 日に行いました。候補者等については前述の「V 本部役員候補者選挙」に記載しています。

2) 名誉会員選考委員会

2019 年度通常総会に推挙する名誉会員について、5 月 15 日に委員会を開催し、支部推薦 2 名、海外推薦 3 名の選考審査を行い、理事会に答申しました。

【支部推薦】 長谷川逸子会員 (関東甲信越支部)
木原 千利会員 (近畿支部)

【海外推薦】 ソック・ジョンフン氏 (KIRA 会長)
カン・チュルヒ氏 (KIA 会長)
ウィリアム・J・ベイツ氏 (AIA 会長)

3. 特別委員会

1) 近未来研究特別委員会

準備委員会より託されたテーマ「JIA は 2030 年に生き残っていけるか」「建築家は 2030 年に生き残って

いけるか」に 대응するために、2018 年 4 月より全体会議とグループごとのワーキングを重ねて参りました。最終報告書をまとめ、2019 年 5 月の理事会でご報告をさせて頂きました。報告書の内容につきましては、JIA マガジン 366、367 でご覧頂けます (JIA ホームページでもご覧頂けます)。

2) BIM 特別委員会

平成 30 年 6 月に閣議決定された「未来投資戦略 2018」を受けて、国土交通省が所管し、官民が一体となって BIM の活用推進を図るために平成 31 年度 (2019 年度) に「建築 BIM 推進会議」が設置されました。6 月の「第 1 回建築 BIM 推進会議」を皮切りに計 4 回の「建築 BIM 推進会議」開催、加えて計 4 回の「建築 BIM 環境整備部会」、計 4 回の「建築 BIM 環境整備部会 作業 WG」が開催されました。

当初から当委員会としては BIM の活用推進には BIM ワークフローの整備と BIM モデルの情報と形態の定義が必須と考え、最初の「第 1 回建築 BIM 推進会議」よりそれを目標に各会議体において、これらの定義を目指してやってきました。結果として「第 4 回建築 BIM 推進会議」にて別添参考資料 (たたき台) 「業務区分に応じた各ステージの業務内容と、各ステージで必要になる BIM データ・図書」として整理されたのは成果かと思えます。

しかしながら、設計者が具体的に BIM を活用しての設計業務を行って行くには、前掲の別添参考資料 (たたき台) をベースにし、各ステージでのモデルの形状詳細度と属性情報量の整理、EIR (BIM 発注仕様書)、BEP (BIM 業務計画書) の整備等が必要です。今期 2020 年度はこれらを「(仮称) 設計 BIM ワークフロー (案)」として纏める事を目標として、委員会としては、日本建築士事務所協会連合会、日本建築士連合会と 3 者共同して取組んでゆく予定です。

3) JIA・SDGs 建築フォーラム実行委員会

2020 年 10 月 30 日に開催予定の JIA・SDGs 建築フォーラムの実行がミッションです。会場を国連大学施設とし、国連 (UN) 及び UN-Habitat の代表者及び SDGs に関わる知識人、活動家を交えて議論を交わし JIA の提言を発表する場とし、今後の JIA 活動の更なる発展に寄与する事を目的としています。また JIA として SDGs の 17 の目標 (課題) に対して、国連がゴールと定める 2030 年までに達成・実現するために、建築家がどのように取り組むべきかを考えるため、SDGs に関わる JIA の代表的活動として 4 つの JIA 全国会議 (環境、保存、災害、まちづくり) を取り上げました。4 つの合同会議並びにプレフォーラムを経て JIA としてより具体的な行動指針を作成し、フォーラムで発信する事を目標としています。

4) JIA 組織再編特別委員会

約 2 年間に渡り、本部理事会及び総務委員会で議論してきた JIA 委員会再編について 2019 年 3 月第 254 回理事会で「JIA 委員会再編の基本方針」を決議しました。この方針に基づいて 1 年間を目途に具体的な再編を進めるために特別委員会が立ち上げられました。

①教育委員会、②表彰委員会、③国際委員会、④旧フェロウシップ委員会の事業整理、⑤職能・資格制度委員会、建築家資格制度実務委員会、建築家認定評議会、⑥新たな全国会議の立ち上げ、について理事会とそれぞれの委員会との間で、具体的な活動に移るための方向性を共有いたしました。

特に⑤建築家資格制度については WG を立ち上げ、支部認定評議会の廃止並びに今後の建築家資格制度の在り方について議論し、課題を整理いたしました。将来像の決定を理事会で早期に決断することが求められます。

5)SDGs 建築日本版特別委員会

国連によって採択された SDG(Sustainable Development Goals)は、貧困、不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和、正義といった、グローバルな諸問題に真摯に取り組むことを求めています。建築は、SDGs の一つ一つと深く関わり、影響し合っています。このため、国際建築家連盟(UIA)は、関連協会と共同して「英語版 SDG 建築ガイド」を2018 年末に発行しました。これに続き、JIA は SDGs 建築日本版特別委員会を立ち上げ、各支部長・理事の協力のもと、日本国中に散見される多様で優れた事例を収集し編集した第 1 号を出版しました。本書は、建築環境の設計、プランニング、デザインの将来を担う建築の学生をはじめ、これからの課題に取り組むすべての行政、市民、専門家、組織を対象としています。

4. 全国会議

1)JIA環境会議

SDGs の 2030 達成を目標に建築家として目指す環境対応を広範に議論し活動しました。弘前大会において第 6 回環境会議と座談会を開催しました。環境会議では各支部の活動報告を受けて活動方針を議論しました。座談会は「記憶を繋ぐ」をテーマに、予定のパネラーに加えゲスト田根剛氏の参加を得て議論が行われ、建築が持続することの大切さを確認しました。

低炭素社会推進会議に構成団体の一つとして参加し、第 6 回シンポジウムにおいて JIA の取り組みを報告しました。

20 回を重ねた環境建築賞に、SDGs を踏まえたこれからの建築家像の発信を加えるべく検討を進め、2020 度の JIA 環境大賞の創設につながりました。

[シンポジウム・セミナーの開催]

再生可能エネルギー利用と建築デザイン (5/12 東京)、環境セミナー/地球環境時代における木造建築 (11/8 大阪)、環境懇話会 (第 15 回/SDGs 環境工学の視点からみるこれからの建築、第 16 回/幼児から高齢者まで健康に暮らせる建築環境の医学的エビデンス、第 17 回/変革する北欧の教育と図書館)

2)JIA建築相談会議

JIA 建築家大会2019 青森 in 弘前 建築相談全国会議は、2018年に続き『全国統一相談カードを活用して、相談結果のデータベースを構築し、知的な蓄積を図る』ため、会議参加者と意見交換を行いました。今迄の建築相談対応結果の知的な蓄積は、今後の課題解決支援として活用が期待出来ます。

メモですが、各支部の建築相談に係る悩み 等を、情報共有として紹介します。

相談員が少ない／弁護士へ紹介してもスムーズに行かない／訴訟の前段階で聞いてくる／クレーマーもいる／相談対応は複数の相談員で対応している

3)JIA保存再生会議

JIA 保存再生会議は、web での定例会の他、JIA 大会に合わせて全国フォーラムを開催し、地域での多様な保存・再生活動の情報を集約し、意見交換をしています。歴史的建造物の保存は地域社会の大きな関心事ですが、九州支部が取り組んでいる大牟田市庁舎の保存問題はメディアからも注目され、保存再生へと向けた大きなうねりとなりました。保存問題は建築家と市民の大切な接点であり、各支部で活発に取り組むことで、建築家職能への認知・信頼の向上につながることを期待しています。

また、近年の大きなトピックとして、近現代建築の保存問題がありますが、昨年の弘前大会でも、城下町としての歴史性を持つ弘前の都市景観の中で、近現代建築である前川國男建築のありようが大きな関心を集めました。文化庁の「近現代建造物緊急重点調査事業」等の展開を見据えつつ、修復塾や再生部会等とも連携し、引き続き全国組織である JIA の保存・再生問題に関するプラットフォームとしての機能を果たしてゆきます。

4) JIA まちづくり会議

JIA まちづくり会議は、全国 10 支部とまちづくり活動に関する情報交換を行っています。具体的には、「良質な建築・街づくり萌芽事例シート」等により、各支部の先進的なまちづくり活動等の共有を行っています。以前より行ってきたプロポーザル等における行政への支援についても各支部での良好な実績が増えて来ました。各支部での活動は多岐にわたるため、これまでの情報交換に加えてテーマを絞ったまちづくり活動についての議論を行うことにしています。

5) JIA 災害対策会議

JIA 災害対策会議では、昨年度に引き続き取り組んできた JIA の DCP(JIA 地域継続計画)を完成させ、理事会で報告しました。また、ネパール地震への支援は現地での確認申請認可までは達成したものの、新型コロナウイルスの感染拡大により中断しています。JIA 建築家大会 2019 弘前では、東日本大震災後の福島で木造仮設住宅が生まれた背景とその可能性、建築家の果たすべき役割について議論を深めました。これらの成果を今後の JIA の災害支援活動に生かしてまいりたいと考えています。

6) その他の活動

① 全国卒業設計コンクール実行委員会

2019 年 6 月 21 日からの 2 日間、東京・新宿アクアプラザにて全国卒業設計コンクールを開催しました。全国から選抜された優秀作品 49 点を展示、審査し金賞 1 作品、銀賞 1 作品、銅賞 1 作品、審査委員特別賞 5 作品を決定しました。

② JIA 文化財修復塾WG

毎月、Web を活用した定例会議を開き、活動計画とその成果、全国保存再生会議内での役割分担、ヘリテージマネージャーとの関係、文化財修復塾WGの運用マニュアルについて検討しました。

VII 支部長報告

1. 北海道支部(遠藤謙一良支部長)

北海道支部は、地域社会との積極的な関わりと建築文化の幅広い発信を目指して様々な活動を展開してきました。特に北海道庁と進めてきました企画の第二期南幌町みどり野きた住まいるビレッジは広い北海道での JIA 建築家の街づくりが大きく評価され継続し、今後の北海道全域での質の高い街づくりの可能性を拓きました。

第2回 JIA 北海道建築大賞では全国的視点で建築文化の向上を図り、暮らしの茶話会を通して建築家が市民交流を重ねました。旭川・道東・函館地区会もそれぞれ建築展や勉強会を重ね北海道全域での活動を行いました。また、JIA スクールで会員の資質を向上し、各表彰で建築文化を高めることに努めました。法人協力会との共同事業も進化し、今後のお互いの発展を目指しております。

以上の活動を冊子「HOKKAIDO ARCHITECTS」にまとめ内外に、JIA 北海道支部の活動を広く発信します。

[本年度の主な事業活動]

- 1) JIA 北海道建築大賞、テスクチャレンジ設計コンペの開催
- 2) 教育関連及び顕彰等:北海道赤レンガ建築賞の共催、JIA北海道支部学生卒業設計コンクール・工業高校生のための北のジュニアオープンデスク開催
- 3) 第二期南幌町みどり野きた住まいるビレッジをスタート
- 4) 一般向けセミナー暮らしの茶話会を開催
- 5) 旭川地区会:バウハウス展 6/4～6/23 Asahikawa School 10/30、11/16
- 6) 道東地区会:建築家スライドレクチャー6/11、11/11
- 7) JIA25 年賞:第 19 回北海道支部より 3 作品出展
- 8) JIA建築スクール:社会の多様な変化に対応し、職能の資質を高めるプロフェッショナル向けサービスを、定期的に開催
- 9) HOKKAIDO ARCHITECTS:支部の活動報告と会員・協力会員の紹介を行いより相互の理解を深める資料の出版
- 10) 建築家の職能の広報:日本建築学会北海道支部作品発表会への協力。
- 11) JIA 法人協力会共同事業の充実:法人協力会主催スタッフセミナー、合同セミナー、函館地区会での協力会セミナーの開催
- 12) 沖縄支部「首里城再建」協力金募金活動

2. 東北支部(鈴木弘二支部長)

東北支部は10年振りに支部主幹として、青森県弘前市にて「JIA 建築家大会2019 青森 in HIROSAKI」を開催しました。会場は前川國男設計の弘前市民会館を舞台に全国から約 550 名の会員が集まり、3日間の大会を盛り上げて頂きました。大会では、弘前の前川建築をフォーカスし、地方における近代建築の保存再生をテーマに掲げ、モダニズム建築の保存再生の重要性、その解決策・手法等がメインシンポジウムや多くの会議体を通して議論されました。そして、JIA の建築家が今後益々積極的に取り組むべき課題であることを再確認することができた大会となりました。

主な事業としては、5 月は「支部・協力会総会」、「弘前大会イベントⅡ」を開催、建築家大会準備委員会の発足。6 月は、「東北公共建築設計懇談会」・「設計三団体サミット」を開催、9 月は、「第 23 回 JIA 東北学生賞」の開催。10 月は「JIA 建築家大会2019 青森 in HIROSAKI」の開催と「第 13 回東北住宅大賞」審査会をおこないました。12 月は「建築学生テクニカルセミナー」を開催。また、12 月末に会員であり仲間であった芳賀沼整さんが亡くなられ本当に無念であります。心よりご冥福をお祈りいたします。1 月は、支部新年会を開催。3 月は「第 13 回東北住宅大賞現地審査会」を行い、「川内の家/佐久間宏一」が大賞を受賞しました。また、「JIA 東北学生卒業設計コンクール」はコロナウイルス感染の影響で開

催を諦め、本大会への推薦者を選定するための支部審査会を Web で開催しました。

今年3月以来コロナウイルスの感染拡大の中で、支部・地域会の活動や会議、総会などができない状況となり、支部事務局も閉鎖される事態となりました。先行き不透明でございますが、一刻も早くコロナが収束し、元のように活発な活動ができる JIA 東北支部に戻れることを願いたいと考えます。

3. 関東甲信越支部(藤沼傑支部長)

支部内の 23 の地域会、16 の委員会の情報連携と課題抽出を重点的に行った。5 月には地域会活動の近未来、7 月には委員会活動の近未来をテーマに会員集会を開催しました。また、ワールドカフェ方式による地域サミット委員長合同会議での活発な議論や東京都内は事業調整 WG を開催するなど、縮小していく財源の中で活動連携による効率化により現状活動の維持強化を模索した。結果としては 2019 年の活動収支は黒字となりました(退職金の関係で決算書では収益は若干の赤字)。

行政との連携は東京三会建築会議と都財務局と、主に告示 98 号に基づき追加的業務の予算確保や設計料の最低限価格について懇親会を開催しました。

定例の活動では、建築相談は 261 件(前年は 246 件)、こども空間ワークショップは合計 20 回開催、保存問題委員会は憲政記念館、JR 原宿駅、葛西臨海水族園、旧九段会館、白日荘、横浜市旧庁舎、旧豊多摩監獄正門等多数の保存問題を検討、災害対策委員会による台風 15 号及び 19 号の対応、環境、建築セミナー、まちづくり、アーバントリップ、JIA トークは、3 月の行事以外はほぼ例年通りの活動を展開できました。東京都学生卒業設計(2018 年卒業)は 55 作品、大学院修士設計展は 2020 年 3 月の応募数 43 作品があったが、北関東甲信越学生課題設計コンクール 2020 は残念ながら中止となりました。支部の国際事業委員会は発足時から本部の委員会と共同開催していたため、支部としての委員会は廃止しました。

今年度は登録建築家制度の新規実務訓練生はいませんでした。登録建築家の新規登録 17 名を含む 325 名を、今年度支部評定評議会を経て本部評定評議会に報告しました。

協力企業との重要な交流の場であるフレンズカップが台風 19 号により延期となり、新型肺炎により中止、さらには 2 月以降の交流委員会の各グループによるイベントが中止又は延期となったのは残念です。

4. 東海支部(矢田義典支部長)

2019年度は、JIA 東海支部にとって大きな事業が二つありました。一つは、2019年9月に開催した、「JIA 東海支部大会 けんちくかフェス - 此処〜 -」です。これは一週間に渡り様々なプログラムを開催し、支部会員、愛知地域会会員のみなさまのお力添えで、大成功の中、終えることが出来ました。2022年には全国大会を東海支部が担当することが決まっていますが、この成功と大会の先見性は、全国大会に向けて大きな弾みになったと感じています。また、2020年1月には、「ゴールデンキューブ賞 2019 / 2020」の国内選考会を JIA 本部の建築家会館で開催しました。これは本部より東海支部が業務依頼を受け、担当した事業になりますが、選考会は完璧なオペレーションの上、無事終了しました。この事業は次年度(2020年度)に出版事業を継続することとなりますが、現在では、東海支部が中心となることで、「JIA こども建築会議(全国会議)」の発足準備委員会の設立に進展をしています。最後に、2020年5月30日に予定していました、「JIA 東海支部卒業設計コンクール 2020」が、コロナウイルスの感染

拡大を受け、中止となったことは、誠に残念です。

[本年度の主な事業活動]

1) 会報誌「ARCHITECT」の編集・発行

第 367 号(2019.04)から第 378 号(2020.03)まで毎月 1 日に発行し、2020 年度には「SDGs 特集号」の発行を予定しています。

2) 第 7 回 JIA 東海住宅賞 2019 の開催

2019 年 6 月 29 日に 1 次公開審査会を行い、最終 6 作品を選出し、8 月 3、4 日に 2 次現地審査会、最終公開選考を行う。大賞 1 作品、優秀賞 2 作品、審査員特別賞 1 作品、奨励賞 2 作品を決定し、審査員は西沢立衛氏、福島加津也氏、木村吉成氏の三名。最終公開選考には、JIA 会員 10 名、一般 60 名、学生 40 名の合計 110 名が参加しました。

3) 第 36 回東海支部建築設計競技の実施

「辺境で、AI と死者と暮す - 外側で生きること/他者と出会うこと - 」をテーマに募集し、応募作品数は 28 作品。公開 1 次審査会を 2019 年 10 月 26 日に開催し、上位 9 作品が公開 2 次審査会(11 月 30 日)に進出しました。金賞 1 点、銀賞 2 点、銅賞 4 点、ゲスト審査員賞 1 点、特別ゲスト審査員賞 1 点を選出。審査委員長は、吉村真基氏、ゲスト審査員、辻琢磨氏、特別ゲスト審査員、村上慧氏です。

4) ゴールデンキューブ賞 2019/2020 の公開審査会・表彰式

2020 年 1 月 25 日に「ゴールデンキューブ賞 2019/2020」の公開審査会と表彰式を建築家会館 1F ホールにて開催しました。公開審査会参加者は、38 名。

5) 「JIA 東海支部大会 けんちくかフェス - 此処〜 - 」

2019 年 9 月 23 日から 9 月 28 日にかけて、古い町並みが残る円頓寺を舞台に開催されました。約 1 週間に渡り様々なプログラムが用意され、CPD 単位 22 単位を提供し、参加者は延べ 455 名です。

5. 北陸支部(高屋利行支部長)

北陸支部の本年度の主な活動は以下の通りです。

[本年度の主な事業活動]

1) JIA 学生卒業設計コンクール北陸支部審査会

日 時: 5 月 12 日(日) (JIA 北陸支部大会 2019in 金沢と同時開催)

場 所: 金沢市文化ホール 3 階大会議室

審査員/委員長: 馬場兼伸(ビーツーエアーアーキテクト株式会社一級建築士事務所)

委員長: 近藤哲雄(近藤哲雄建築設計事務所)

委 員: 乾彰宏(福井)、吉島衛(石川)、種昂哲(富山)

参加者: 52 名(正会員 27 名、協力会員 1 名、準会員 2 名)

2) JIA 北陸支部大会 2019in 金沢

日 時: 5 月 11 日(土)12 日(日)

場 所: 金沢市文化ホール

・大会記念講演テーマ: ありそうでない空間のためにー建築に纏める私の方法ー

参加者: 129 名(正会員 51 名、協力会員 10 名、準会員 3 名一般 65 名)

- ・座談会パネラー:浦淳氏、石村聖一郎氏、竹内申一氏、長村峰行氏
コーディネーター:高屋利行氏
テーマ:30周年記念事業を振り返って
参加者:60名(正会員44名、協力会員11名、準会員3名、一般2名)
- ・大会特別講演1 ビーツーエアーアーキテクト株式会社一級建築士事務所
馬場兼伸氏
テーマ:出来事の建築
参加者:75名(正会員32名、協力会員1名、準会員3名、一般39名)
- ・大会特別講演2 近藤哲雄建築設計事務所 近藤哲雄氏
テーマ:建築と環境
参加者:77名(正会員32名、協力会員1名、準会員1名、一般41名)
- ・懇親会
日時:5月11日(土)
場所:三井ガーデンホテル能加万庭

3) 建築 SDGsシンポジウム

- 日時:11月30日(土)
場所:金沢歌劇座3階大練習室1
- ・講演1 一般社団法人SDGs支援機構代表理事 河上伸之輔氏
- ・講演2 公益社団法人日本建築家協会副会長 岩村和夫氏
- ・パネルディスカッション
河上伸之輔氏 岩村和夫氏 西川英二氏((株)五井建築研究所代表取締役)
コーディネーター 高屋利行氏
参加者:67名(正・準会員23名、協力会員19名、会員外25名)

6. 近畿支部(井上久実支部長)

情報化社会が大きく進む中、政治、経済、国際情勢、教育等、様々な側面において、我々を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。特にIoTの進化、AIとの共存、BIM活用の拡大などに取り組む中で、これからの社会にはこれまで以上に“人間”の思考、感覚、そして創造性が大きく問われると感じています。

そして、2025万博の開催が大阪に決まりました。デジタル社会が加速する中、あえて「人」にフォーカスをあてたテーマは魅力的です。万博をきっかけに、大阪の街づくりが「人」にフォーカスした「多様性」や「健康」が感じられるより「豊かな」ものになるためには、JIA建築家が深く関わっていく必要があると痛感します。

我々JIA建築家は、自らの創造力を発揮し、これからの街づくりのために、社会と市民のニーズに感度よく応えて、その活動を広く発信することに邁進しました。

JIA近畿支部基本政策諮問会議答申書で発信された「JIA近畿支部のこれからの活動」をさらに進めました。

- 建築家を議論する

- ・ 建築家間の議論・意見交換や、他分野との交流を促すアーキサロンの実施
 - 第5回テーマ：「建築家って」
 - 第6回テーマ：JIA 名誉会員 木原千利氏講演会
- ・ セミナー：設計者選定を考える（箕面市長倉田氏対談）
- ・ セミナー：登録建築家を考える（JIA 関係者対談）
- ・ 支部役役員会後の勉強会の実施
- ・ 支部大会 in 京都の企画
- 建築家を顕彰する
 - ・ 歴代関西建築家大賞作品展示会
 - セミナー：建築家の顕彰を考える（歴代受賞者対談：出江寛氏、坂茂氏）
 - ・ 関西建築家大賞の実施
 - ・ 近畿支部学生卒業設計コンクールの実施
 - ・ 同上コンクール受賞者の発表会実施
- 建築家をサポートする
 - ・ 支部から会員への情報共有の明瞭化を図る。
 - ・ 地域会間の情報を共有するため、ネットワーク拡充する。
 - ・ 会員サービスとして契約、紛争等の会員相談窓口の整備を図る
 - ・ 法人協力会員を含む民間企業との連携を図り、JIA の活性化に繋げる。
 - ・ インターンシップ実施（在阪建築4団体共同事業）
 - ・ 若手建築家日中韓ワークショップ in 大阪の開催、釜山アイデアコンペの協力
 - ・ 学生に向けて卒業設計のポイントセミナー（青年委員会）
 - ・ 被災地活動ヘルメットの作成、非常災害時行動マニュアルの作成
- 建築家を発信する
 - ・ 支部、地域会活動の情報発信を図る。
 - ・ 和歌山県有田市プロポーザルに審査員派遣
 - ・ まちづくり提言書の作成、発信（在阪建築4団体共同事業）
 - ・ まちづくりアイデアコンペの企画（ユニオンと共同事業）
 - ・ 各建築賞のメディア発信を図る。
 - ・ 建築家カタログの発刊（住宅部会）
 - ・ 発注者に向けて JIA サポートの企画
 - ・ 建設専門学校（協力会員）の卒業設計講評会のコメンテーター派遣

7. 中国支部(田中輝幸支部長)

2019年度は当初計画していた「JIA 中国建築大賞」「JIA 中国支部建築家大会」「全国学生卒業設計コンクール出品参加支援」の3つの事業は実施できました。しかし、2月の「2020JIA 中国支部台湾研修ツアー」と3月の住宅部会例会の「中国建築大賞住宅部門受賞作品を巡るⅡ」の事業は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となりました。若い会員の増強や交流部会の増強については十分にできたとは言えません。今後とも、住宅部会など若い方が参加しやすい活動や交流部会との交流

を深め活性化を図る必要があると考えます。

昨年 10 月末、首里城が焼失するという甚大な被害が発生しました。支部会員ならびに協力会員の皆さまから支援金を募り、沖縄支部へ送金させていただきました。

[本年度の主な事業活動]

1) 第 11 回 JIA 中国建築大賞 2019

今年度から古谷誠章氏に審査員長が変わり、一次審査も公開審査に変わりました。檜村徹会員、村重保則会員、前田圭介会員を昨年と同じく審査員として実施しました。一般建築部門 20 点、住宅部門 5 点、計 25 点の応募があり、8 月 31 日に一次審査を行い、一般建築部門 8 点、住宅部門 2 点を一次審査通過作品とし、10 月 12 日～14 日の 3 日間にわたって現地審査を行い、以下の受賞作品を決定しました。

- ・一般建築部門 : 大賞 1 点、特別賞 2 点、優秀賞 5 点
- ・住宅部門 : 大賞 1 点、優秀賞 1 点

2) JIA 中国支部建築家大会 IN 広島 2019

11 月 8 日、9 日の 2 日間にわたり広島市で開催しました。1 日目は午後から、森保洋之氏の「宮島の町家・町並みの特徴・魅力、その再生」と題した基調講演を聴講し、2 日目は午前中、第 11 回 JIA 中国建築大賞 2019 の表彰式と審査講評に引き続き、古谷誠章氏の「地域社会・自然災害・地球環境／建築に何が可能か？」と題した記念講演を聴きました。午後からは、基調講演の内容を踏まえて「宮島まちなみ見学」のエクスカージョンが開催されました。

3) 全国学生卒業設計コンクールへの出品参加支援

「JIA 岡山学生卒業設計コンクール 2020」から 1 点及び「広島平和祈念卒業設計展 2020」から 4 点の計 5 点を「JIA 全国学生卒業設計コンクール 2020」へ推薦しました。

- ・「JIA 岡山学生卒業設計コンクール 2020」 参加校:3 校 出品者:9 名
審査委員長:塚本由晴氏 審査員:中桐慎治会員、黒川隆久会員
- ・「広島平和祈念卒業設計展 2020」 参加校:12 校 出品者:79 名
審査委員長:今川忠男会員 審査員:武田賢治会員、来間直樹会員

4) 広島県「魅力ある建築物創造事業」への連携協力

ひろしまたてものがたりフェスタ実行委員会が主催する「ひろしまたてものがたりフェスタ 2019」への開催協力を行いました。

- ・実行委員会副委員長:千原康弘広島地域会長

8. 四国支部(武智和臣支部長)

2019 年度の四国支部及び 4 県それぞれの地域会の主な活動を挙げます。

香川地域会は、支部大会の開催、近代モダニズム建築の保存再生。愛媛地域会は、伝統建築群の調査、まちづくりの支援、子ども建築学校を通して子どもへの建築教育。徳島地域会は資格制度問題、市民向けの講座の開催。高知地域会は高知県建築行政についての勉強会、災害に対する備えに関する建築関係団体との協議会開催、建築文化賞の開催、大学高専卒業設計コンクール等々です。各県時世に合わせた特色のある活動を行いました。

[本年度の主な事業活動]

- 1) 四国支部大会 2019 KAGAWA 2019/5/25
- 2) 卒業設計コンクール 2020/3/7
- 3) 会員集会 2/29 テーマ:資格制度の来し方と今後
- 4) 総会 2019 年度通常総会 5/25
- 5) 建築家資格制度実務委員会・認定評議会 2020/2/20
- 6) JIA25 年建築選/審査会 2019/9/11 会場:安藤医院
- 7) 支部会計監査 2020/4/21
- 8) JIA Forum in Matsuyama 2019/10/26 風のかたち熱のかたち建築のかたち
講師:末光弘和氏
- 9) 伊予市 IYO 夢みらい館完成説明会 2019/11/6 講師:山下設計 小原信哉氏
- 10) SDGs 勉強会 2020/2/21 テーマ:SDGs とは何か
講師:竹下准教授(愛媛大学教育学部)
- 11) 宇和島市吉田町まちづくり講座 2020/2/22
- 12) 宇和島市津島町活性化事業 2020 /3/17 阿部家調査及び小西本家構造調査
- 13) 香川第 1 回 セミナー 2019/7/30 テーマ:パッシブタウンプロジェクト
- 14) 第 2 回セミナー2019/8/22 テーマ:SDGs とは 講師:鎌田吉敬氏
- 15) 第 4 回 セミナー 2019/11/16 内容:船の体育館祭り
- 16) 2019SHIKOKU デザインフェュージョン 2019/4/6~7
テーマ:猪熊弦一郎、流政之、イサムノグチ、川島猛、ジョージ中島、
- 17) 坂出アートプロジェクトしんきんぐ of Art 支援事業 2020/2/1-3/1
テーマ:地蔵通りアートの散歩道(坂出市にぎわい創出認定事業)
- 18) 第 29 回建築市民講座(毎年 1 回開催) 2020/2/8
「ぼくらの履歴書-学生時代に考えた こと、そして今 2」講師:建築家 川卓也氏
- 19) 徳島都市研究会の活動 (建築学会との協働活動) 2019/4/1-2020/3/9

9. 九州支部(川津悠嗣支部長)

2019 年度は支部長としての任期を締めくくる 1 年となりました。九州支部は 8 つの地域会を抱えることもあり、各地域会活動の活性化サポートと地域間連携の要となることを意識した支部活動を行っています。「福岡県弁護士会館」での発注者支援の経験を活かし、これからの私達の職能と職域の拡張を考えた「JIA サポート」という事業展開のためのパンフレットを作成し、2018 年度末に刊行した九州支部 30 周年記念誌とともに各方面への配布を行いました。熊本地震から 4 年になり災害復興住宅完成により一区切りつくことで、九州支部での地震後の活動をまとめた記録誌を企画し、次年度の発行を目指しています。建築相談活動は前向きな事前相談活動への展開を図りつつあります。各地域会独自に行われている国際交流事業を支部内共同で取り組む九州支部モデルを検討中です。すべての事業は、建築家の職能の認知がすすみ、私たちが地域社会と繋がっていくことを目標に取り組みしました。

[本年度の主な事業活動]

- 1) 会員集会(福岡):2019 年 4 月
- 2) 教育機関への建築家派遣事業(東住吉小学校):2019 年 4~6 月

6年生を対象とし総合学習授業カリキュラムの一環としてまちづくりについての授業サポートを行いました。

3) 見学会(旧都城市民会館):2019年6月

4) 大牟田市庁舎本館保存活動:2019年9月～2020年1月

保存の為に要望書提出し、市議会総務委員会での意見陳述を行いました。その後市民参加のシンポジウムを主催しました。

5) 建築家大会(弘前):2019年10月

6) 文化財修復塾(大牟田):2020年1月

7) JIA九州建築塾(福岡):2020年2月

「地域の担い手を地域で育てる」ことを目指して福岡地域会主催で行いました。講師に末光弘和氏を迎え、「環境をつくる」というテーマに15名の塾生が挑みました。

8) 地域交流会(福岡):2020年2月

9) デザインレビュー2020(東京):2019年3月

学生実行委員会とともに準備を進めてきましたが、集会の自粛により福岡の会場での本選は中止し、東京会場からのオンラインの公開審査をSNSで配信を行いました。

デザインレビューを見学する高校生レポーターを募る事業を始め、各地域会が募集してエントリーがありました。本選が中止になったことで実行できませんでしたが、次年度に続く活動ができました。

10. 沖縄支部(伊良波朝義支部長)

2019年度通常総会において第7代支部長に就任し、新しい体制のもとこれまでの事業を引き継ぎ、更にブラッシュアップしながら新規事業も含め活発な公益事業を計画して参りましたが、この度の新型コロナウイルスの影響により、一部の事業を延期または中止とせざるを得なくなり心残りとなる一年となりました。

その様な中、若手会員増加による支部活動の幅の広がりや、環境建築賞最優秀賞、25年賞受賞など明るいニュースもあり、JIAの建築家が社会に向けてどのように行動を起こすか気付きの得られた年となりました。

今後も社会のニーズに柔軟に応え、地域に根ざした事業を展開し、社会に信頼され頼られる士となるよう、また若手育成も積極的に展開して参りたいと思います。

[本年度の主な事業活動]

1) 第4回沖縄未来建築塾:年8回開催(コロナ禍により今回7回で終了)

U-40の若手設計者や学生が対象 県内外より講師を招聘

2) 住まいづくりカルチャースクール:新規事業

ストック社会を見据え、家づくりの計画からメンテナンスまでを会員や様々な分野の専門家を交えて5回シリーズで開催

3) 国際交流事業 in タイ(チェンライ・バンコク):通年事業

小学校や大学、地元建築家と交流予定でしたがコロナ禍により延期

4) 琉球浪漫 2019「首里城の輪郭」展(展示、シンポジウム、講演会、ワークショップ等)コロナ禍の影響により延期や一部中止

- 5) 第7回ティーダフラッグス2019(U-40コンペ)公開審査会: 県主催、建築設計四会との共催
中城公園内公衆トイレの実施コンペ審査委員として参加
- 6) 第6回沖縄建築賞: 建築設計三会との共催
応募受付まで終了しましたが、コロナ禍により書類審査、現地審査を延期